



# かね

# 曉鐘の音

10

## 背中

十一月一日からAT専用の運転免許制度がスタートした。発進時のトラブルや、ブレーキと間違えてアクセルを踏んでしまうことによる事故が絶えないことで、この制度が設けられたのであるが、効果のほどは暫く様子を見なければ何とも言えない。

それよりも女性の免許取得に対する心理的障壁が低くなり、軽い気分で免許を取る人が増える危険性がある。さて最近、後続車に気を配らないドライバが増えてきた気がする。と言ってもパトカーを気にするのではなく、後続車に無関心なのである。それもトラックよりも乗用車の方が多く感じる。トラックの場合は寧ろ荒っぽいか、さもなければプロだなあ〜と感じさせる走り方をしている。困るのは一見行儀よく走っている乗用車である。調子を合わせて後ろを走っていると、急に車線を変えたり、曲がったりする。また合流時に後方に対する余裕も減った感がある。以前は女性ドライバーに多く

見られたのであるが、最近女性に限らないし、二十歳前後とも限らない。

彼らは走っている時に後ろのことを気にしていないのである。と言うより、自分の責任は前にある、だから後ろの車も同じ様に前方に何が起っても対応できるように走れと言うのである。同じ道路を同じ方向に走っているという連帯感など全く持ち合わせていない。ま、顔も合わせない。もないのだし、無理もないかも知れないが、ちよっぴり寂しい感じがする。前方は自分の責任で何とかすればよいが、後ろには気配りが必要だ。合流点に直進してくる車に不自然な減速を強いたり、後ろの車に急ブレーキを踏ませるようではまずい。良いドライバーは後ろの車に優しい運転をする。組織においても「後ろに対する配慮」が欲しい。濛々と土煙を巻き上げたり、急に曲がったりしたのでは、後から続いて来る人が、行く先を見

失ってしまった。後ろに続く人達の様子を背中を感じながら、安心して付いて来れる様に走って欲しい。若い人達ともすれば燃料を補給しないで走ることが多く、ガス欠を起したり、エンジン・トラブルを起こすこともある。何時もいつも振り向いて待つてやる必要はないが、時にはスピードを弛めたり、ガス補給の指示を出したりして、背

中で見てくれていることを彼らに感じさせる様な走り方をしたい。そういう姿を見せることが、彼らが次の時代に良いドライバーになれる一番の近道でしょう。まさか同じ組織に巡り合わせ、同じ方向に走ろうという者同士が、先の道路の場面と同じ様に相互に無関心というのではやるせない。

### 今月の一言

「苦悩は肉体的にも精神的にも人間が成長してゆく為に欠くことのできない条件である。過失や失敗の為に取り乱さないように心がけよ。自分の過失を知ることほど教訓的なことはない。それは自己教育の最も重要な方法の一つである。」

カーライル

一度成功体験したことや類似の成功体験があることに對しては、ある程度ゴールを予想したり、そこに至るための方策を考えることができ、一般にはそれ程の苦悩は感じない。苦悩を感じるということは、そのことに對して未経験である証拠であり、確実に処理するための力量が足りないことを示している。

人は今居るところから一歩踏みだそうとするとき苦悩を味わう。例えば自己の現状を改善することは苦悩だし、仕事のやり方を変えようとするのも苦悩だし、新しい技術を身に付けることにも苦悩を感じるはずだ。ましてや人をリードしようとすればそれこそ苦悩が束になつて迎えに来るでしょう。苦悩に遭遇して「どうすればいいんだ!」と叫ぶとき、その人は成長の階段に片足を掛けているときなのです。そこでは、創意と工夫と「ねばり」が必要なのです。もしこの種の苦悩を避けて通つてばかりいたなら、何時まで経つても未経験のまままで終わってしまう。最悪の苦悩とは苦悩に遭遇しないことか。

presidentという言葉はpre + sedeで「前に座っている」という意味になる。つまり社長はこれから進もうとする方向を見据えているのである、したがって社員はその背中を見ることが出来る。この関係は何も社長と社員という関係に限らない。自分の後ろに続いてくる人がいる限りこの姿勢は必要であり、この関係の最終形態が社長というだけである。普段から背中を見せられなかった人が、社長になったからと言って突然この芸当が出来る人は殆どいないだろう。背中では指導するということが容易ではない。後ろに続く人が何を考え、どの様な行動をとるか手に取るように分からなければ、また適時的確な指示を出していなければ、ちゃんと付いてくるか不安になりつい対面してしまう。組織を構成する一人ひとりが後ろに心を配る(「心配」の本来の意味)とき、そこに自ら好ましい組織の風土が形成される筈である。

女優の田中絹代は「映画の演技の中で、一番難しく、また味がするのは、カメラに背中を向けての芝居です」と言っている。正面は取り繕うことが出来るが、背中はどうにもならない。